

**題目：生活のパラダイム・シフト**

**講師：林吉郎 Ph.D 青山学院大学、名誉教授**

**日時・場所：2013年4月20日（土）午後1時～午後4時 新宿アイランド 4階 4104号室**

**言語：ベースは日本語、多くのコンセプトに英語を併用。英語での質問には英語で答えます。**

**参加費：一般会員、会員学生（学部生・大学院生）、非会員学生（学部生のみ）は無料。**

**非会員、非会員学生（大学院生）は1000円。**

**参加者の皆様にご用意いただくもの：マーカー（ご自分の使いたい色）を6色程ご持参下さい。用紙にビジョンを描くアクティビティーに使用します。**

参加人数を把握するため、ご氏名とお電話番号をお書きの上、programs@sietar-japan.org までご連絡ください。（人数制限はありません。）

### プログラム概要

近年、パラダイム・シフトが進み、複雑系、構成主義、解釈主義といったポストモダンと呼ばれるアプローチが論じられていますが、SIETAR Japan の皆さんは、実生活においてパラダイム・シフトしていますか。また、医療や人間社会の研究において、西洋の科学的伝統と東洋の精神的伝統を結びつけた新しい知見を得ようとする新科学運動（New Science Movement）も進みつつありますが、生活の中でどう取り入れていますか。代替医療/ヒーリング、不確定性原理と結びつけた意識パワーの開発、感動に結びつけた新しい神経回路の開発（髄鞘化）、「本当のビジョンがあれば、それは自然に達成されると信じて実践している」、「病気は自分で治すもの。医者はちょっと手助けしてくれるだけ」等等、その例は数多くあります。あなたは異文化コミュニケーションといった人間科学の研究において、科学的方法論、客観的情報に強く固執することに対してどう感じていますか。

このワークショップでは、価値観、信念、行動といった日常生活に溶け込んでいる文化的要素の視点から、パラダイムの軸である知覚を具体的に見つめることから初め、そこに介在するアナログ情報化、そこで働くトキメキ/気落ちの大きな意味、想像力・ビジョンの開発などをコ・ラーニングすることにしたいと考えています。筆者が確信を得ている仮説や発見はシェアしたいと考えてはいますが、ファシリテーションを通じて参加者それぞれが何か感動的なことを相互ダイアログや経験学習を通じて発見できればその方が大きな成果だと感じています。このワークショップは、その意味では筆者の探求結果のアカデミックなプレゼンテーションではありません。

パラダイム・シフトという言葉の意味をもっとよく知りたいと思っている人、本当に自分がしたい研究を見つけないと模索している人、クラスとは知識を教える場だと思っている人、研究と生活・仕事をもっと結び付けたいと思っている人、自分の天才性に気付いていない人、共時性（シンクロ・イベント）をもっと活用したい人などのご出席は、大歓迎です。勿論その他の方々も大歓迎です。

言語は、2言語思考の筆者にとってどちらの言葉が自分を表現し易いかによって、その時々で自動的に決まってしまう。英語の言葉とその日本語はニュアンスの違ったことを表す場合もあり、言語的なご質問は大歓迎です。「心」と「マインド（mind）」の違いはその例です。

### 講師

**頂きもの：**フルブライト留学、インディアナ大学より MBA+Ph.D.、アメリカでの10年の教暦を含む15年の生活経験、青学26年の教暦と名誉教授、異文化コミュニケーション研究所（SIC, Portland）での8夏の教暦、4年の国連 CTC コンサルタント歴、有斐閣から出版した『異文化インターフェイス経営』（日経、1994）で第一回大平正芳記念賞および経営科学文献賞、International SIETAR (NGO, Washington, D.C.) から1995 Outstanding Senior Interculturalist Award for Achievement 賞

**骨の痛み：**10冊ばかりの本と約70の論文執筆。お返ししたもの：恥かしきかな、特記することなし。